

4 法的三段論法を答案で示すためにはどうするか（司法試験の答案の基本型）

第1 設問1

1 ○○○について

(1) 本問の事案の問題提起（具体・個別） → 論点の問題提起（抽象・一般）

(2) 論点の論証：理由→規範定立（抽象・一般）

←この「理由」は、可能ならば、条文の趣旨や基本原理から書きたい。

(3) あてはめ（ここでは、「問題文の事実の引用→その事実についての自分なりの評価→認定」という3段階で書く。）

(4) 結論（具体・個別）

答案を上記の型で書くと、

- ① 答案が法的三段論法を踏まえたものとなり、「具体→抽象→抽象→具体」と流れ、
- ② 自分が設定した問いとそれに対する結論が対応し、
- ③ 規範とあてはめを別個に書くことができ（抽象論と具体論の峻別）、
- ④ 答案を読む人（司法試験審査委員）に予測可能性を与え、自分の体系的理解をアピールすることができる。

5 司法試験に合格するための勉強法とは

司法試験に合格するためには、「基本的な知識を定着させること」が最も重要である。

ここにいう基本的な知識とは、条文（要件と効果）、定義、趣旨、判例百選に掲載されているレベルの重要判例の事案と規範に関する知識をいう。

また、定着させるとは、自分の頭で理解し、記憶し、文章で表現することができることをいう。

司法試験に不合格になってしまう人は、基本的な知識の定着が足りないことが原因であることが多い。

基本的な知識を定着させるために有効な勉強は、短答式試験対策である。したがって、司法試験の勉強を始めた最初の段階から、短答式試験の過去問を解くようにする。これをしているか否かで、早期に合格できるか否かが決まると言っても過言ではない。最終的には、短答式試験で高得点をとることが司法試験に合格する確率を上げるためには必須であるため、目的とする点数を「合格最低点＋50点」と決めて、短答式試験対策には力を注ぐことが望ましい。

具体的な勉強法として、インプットとしては、基本的な知識である重要条文と百選レベルの判例を血肉化させるために、①条文を徹底的に読み込み（音読または素読をする。）、②判例百選などに掲載されている判例（最高裁判所が出した判断）の事案と判旨を読み込むことが大切になる。

また、アウトプットとしては、①旧司法試験の短答式試験（民法のみでよい。）及び論文式試験の過去問（直近の問題の方が、新司法試験を意識しているため、重要である。）と②新司法試験の過去問（短答も論文も、これが最重要！！）を解き、司法試験予備校の答案練習会を受講することが大切である。

勉強をする際には、インプットの時には、論文式試験で答案を書くことを意識して必要事項は記憶するように努力すること、答案練習会を受講するときには、時間感覚を意識し、事務処理能力の向上に努めることが大切である。

以上